



1Fに設けられたオストメイト対応の多機能トイレ。清掃のしやすさも考慮し、大便器には壁掛けタイプを採用している。ベビーチェアやおむつ交換台なども用意されている。



4床室の洗面カウンターは、カウンター横に入って介助ができるように、片側に十分なスペースを確保。また、カウンターの側面もしっかりと清掃できるよう、あえて壁との間に隙間を設けて設置している。



Voice 病院スタッフの方々からの声

ポータブルトイレが減って、歩行器の利用が増え、ADLの改善を感じます。



三重県厚生農業協同組合連合会
事業部 施設担当 マネージャー
藤田勇人さん(左)
大台厚生病院
事務部長 **田畠耕治さん**(中左)
看護部長 **小野節子さん**(中右)
看護師長 **中西博子さん**(右)

大台町、大紀町、三重県、三重大学、JA三重厚生連の5者協議会を発足させ、病院を新築する運びになりました。地域が一丸となって、医療機能を統合して高めて行こうという意思は強く、そうした想いは新病院のサインにも表現され、大台町の花であるホンシャクナゲと、大紀町の花であるツツジが、各所にあしらわれています。旧病院は老朽化していましたし、スタッフ用のトイレは和式だけの状態でしたから、大々的に変わりましたね。以前はトイレや手洗いの場所が少なかったという感染対策上の問題も解決できましたし、清潔と不潔のエリア分けもできるなど、多くの希望がかないました。トイレの位置も、以前は患者さんが移動するのに遠かったのでポータブルトイレの使用が多かったのですが、今はトイレで排泄してもらえるようになりました。車いすの患者さんも自走して行けますし、ポータブルトイレがだいぶ減り、逆に歩行器が増えましたね。ADLがずいぶん改善されていると実感します。新築という一世一代のようなタイミングでしたから、この時点でできる限りのことをしようと、みんなでベストを尽くして本当に良かったと思っています。

宮川メディカルセンター

医療と介護の機能を集積させた、温もりのある施設。

同じ大台町に、町が主導する形で、宮川メディカルセンターも新築されました。既存の福祉センターに隣接して、老健施設と診療所の2棟を建設。両施設とも内装材などには大台町産の杉の間伐材をふんだんに使用し、地域に根ざした温かみのある施設となっています。木の香りにはリラックス効果もあり、利用者はもちろん、スタッフにも「心にゆとりを持って介護ができる」と、たいへん好評。さらにトイレにも町産材が使われ、消臭・調湿効果を感じられると喜ばれています。

老健施設には個室60室と4床室10室があり、1Fにはデイケアも。自宅との橋渡しになるためにも、利用者が自宅にいるような感覚で自分のペースで暮らせるように配慮され、リハビリにも独自開発のプログラムによる工夫がなされています。



「介護老人保健施設みやがわ」には、デイケアセンターも併設。この左側には「報徳診療所」が開設されている。

- 宮川メディカルセンター(介護老人保健施設みやがわ・報徳診療所)
- 竣工年月 / 2015年3月
- 所在地 / 三重県多気郡大台町江馬114
- 施主 / 三重県多気郡大台町
- 設計 / 株式会社東畠建築事務所、株式会社スペースデザイン
- 延床面積 / 5,750m²
- 運営 / 社会福祉法人 明合乃里会
- 定員 / 100名



個室には、車いすでアプローチしやすい洗面カウンターを設置。入口扉は木でデザインされ、和やかな雰囲気を醸し出している。



4床室の入口に設けられた、木の風合いが温かいトイレ。背もたれ付き手すりや前方アームレストなどが設けられている。